

待機児童・子ども支援対策 調査特別委員会報告資料

令和元年 11月15日

報告事項件名	頁
(1) 平成28年度あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（AS MAP）三次分析結果について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2

(衛 生 部)

待機児童・子ども支援対策調査特別委員会報告資料

令和元年11月15日

件名	平成28年度あだちスマイルママ&エンジェルプロジェクト（ASMAP）三次分析結果について																				
所管部課名	衛生部 保健予防課																				
内容	<p>平成28年度からASMAP事業を開始しており、平成29年度から、東京医科歯科大学との共同研究でASMAP事業の分析・評価を実施している。</p> <p>手法として、層別分析・有意差分析・前年度比較分析・D妊婦分析を一次分析及び二次分析として行った。</p> <p>いずれも数値（指標）の改善が認められ、ASMAPによる事業効果であると推察される分析結果であった。</p> <p>今回、最終の三次分析として、妊娠届の情報から虐待ハイリスク群を抽出するための手法に修正が必要かどうか、東京医科歯科大学により三次分析として検証を行った。【別紙1参照】</p> <p>1 分析対象について 転入、出産後届を含む平成28年度に届出があった6,008人分の妊娠届のデータと、そのうち乳児（3～4か月）健診を受診した4,737人分の乳児健診データを連結して分析を行った。</p> <p>【参考】一次分析：1,859人 二次分析：4,344人</p> <p>2 分析結果について ○赤ちゃんへの激しい揺さぶり、口塞ぎのリスク因子</p> <table border="1" data-bbox="515 1608 1385 1870"> <thead> <tr> <th>要因項目</th> <th>オッズ比</th> <th>P値</th> <th>有意差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24歳以下の若年妊婦</td> <td>1.69</td> <td>0.030</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>経済：やりくり大変</td> <td>1.78</td> <td>0.027</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>経済：苦しい</td> <td>2.83</td> <td>0.015</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>第1子</td> <td>1.86</td> <td><0.001</td> <td>あり</td> </tr> </tbody> </table> <p>オッズ比：要因のある人となない人の比 P値：偶然性の影響だけで違いが出た確率 通常P値が0.05未満（偶然性の影響の可能性が十分小さい）であれば、「確実な違い」があり、「有意差がある」と解釈</p>	要因項目	オッズ比	P値	有意差	24歳以下の若年妊婦	1.69	0.030	あり	経済：やりくり大変	1.78	0.027	あり	経済：苦しい	2.83	0.015	あり	第1子	1.86	<0.001	あり
要因項目	オッズ比	P値	有意差																		
24歳以下の若年妊婦	1.69	0.030	あり																		
経済：やりくり大変	1.78	0.027	あり																		
経済：苦しい	2.83	0.015	あり																		
第1子	1.86	<0.001	あり																		

○「子育てのイライラ」のリスク因子

要因項目	オッズ比	P値	有意差
19歳以下の若年妊婦	3.50	0.005	あり
こころの病気	2.05	0.02	あり
経済：やりくり大変	1.62	0.034	あり
経済：苦しい	3.16	0.002	あり

妊娠届を活用したハイリスク群の推測は有効であり、特に年齢、経済状況、こころの病気の有無については、もれなく把握する必要があることが示唆された。

同様に、「子育てが楽しくない」のリスク因子を分析した。

○「子育てが楽しくない」の要因

要因項目	オッズ比	P値	有意差
40歳以上の妊婦	1.95	0.033	あり
妊娠の戸惑い	3.45	<0.001	あり

問題点
今後の方針

妊娠期からの個別支援に加え、誰もが気軽に利用できる産後ケア事業の実施や、臨床心理士や看護師等の専門職による育児ストレスや育児不安の軽減を目的とした育児ストレス相談事業の実施を検討する。

ASMAP 妊娠届・3か月健診データ<三次分析> 解析結果

令和元年 8 月 20 日

東京医科歯科大学 国際健康推進医学分野
藤原武男

平成 28 年度の全妊娠届および 3 か月健診データから、妊娠届の情報から虐待ハイリスク群を抽出するためのアルゴリズムに修正が必要かどうかを検証した。

足立区より提供を受けた妊娠届データから流産等を除き、データリンクできた 5,955 件を解析した。そのうち、転居等で 3 か月健診の対象でなかったのは 1,034 名 (17.4%) であった。したがって、3 か月健診の対象者は 4,921 名であり、受診者は 4,737 名 (96.3%)、未受診は 184 名 (3.7%) であった。したがって、この解析は 4,737 名を対象に行った。

< 3 か月健診で把握される赤ちゃんへの激しい揺さぶり、口塞ぎのリスク因子 >

3 か月健診で赤ちゃんへの激しい揺さぶり、口塞ぎをアンケートで調査した。具体的には「赤ちゃんが激しく泣き続けるので思わず口を塞いだり激しく揺さぶった」との質問に、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 件法で回答してもらった。そのうち、「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」と答えた群を虐待群(5.7%)とし、妊娠届で得られる情報との関連を多変量解析で確認した。

その結果、虐待と有意に関連していると考えられたのは 24 歳以下の若年妊婦(オッズ比: 1.69, $p=0.030$)、貧困(やりくりが大変はオッズ比: 1.78, $p=0.027$ 、苦しいはオッズ比: 2.83, $p=0.015$)、第一子(オッズ比: 1.86, $p<0.001$) であった。その他の要因でこれまでハイリスク要因と考えていたところの病気、生活保護・無保険、妊娠届の提出が遅い、シングルマザー、4 回以上の妊娠経験、相談できる人の有無、喫煙、飲酒については有意な関連はみられなかった。

< 3 か月健診で把握される「子育てのイライラ」のリスク因子 >

同様に、3 か月健診で「子育てを負担に感じたりイライラする」との質問に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の 4 件法で回答してもらった。そのうち、「あてはまる」と答えた群をイライラ群(5.7%)とし、妊娠届で得られる情報との関連を多変量解析で確認した。

その結果、19歳以下の若年妊婦（オッズ比：3.50, $p=0.005$ ）、こころの病気（オッズ比：2.05, $p=0.02$ ）、貧困（やりくりが大変はオッズ比：1.62, $p=0.034$ 、苦しいはオッズ比：3.16, $p=0.002$ ）であった。その他の要因でこれまでハイリスク要因と考えていた生活保護・無保険、妊娠届の提出が遅い、シングルマザー、4回以上の妊娠経験、相談できる人の有無、喫煙、飲酒については有意な関連はみられなかった。また地域差もみられ、千住保健センターで子育てのイライラは低かった。

これらの結果から、妊娠届を活用したハイリスク群の同定は有効であり、特に年齢、経済状況、こころの病気の有無についてはもれなく把握する必要があることが示唆された。

< 3か月健診で把握される「子育てが楽しくない」の要因 >

同様に、3か月健診で「子育てを楽しみますか」との質問に「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4件法で回答してもらった。そのうち、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と答えた群を子育て楽しくない群（1.8%）とし、妊娠届で得られる情報との関連を多変量解析で確認した。

その結果、40歳以上の妊婦（オッズ比：1.95, $p=0.033$ ）、妊娠の戸惑い（オッズ比：3.45, $p<0.001$ ）であった。その他の要因でこれまでハイリスク要因と考えていたシングルマザーは保護的な要因であった（オッズ比：0.29, $p=0.034$ ）。その他の要因は有意な関連が見られなかった。